

学校評価アンケート結果報告

平成30年1月
大阪高等学校

本校では、よりよい学校づくりを目指して改革を続けております。さらなる教育の環境整備と質的向上、教育成果の向上のために様々な取り組みを重ねて参りました。その成果を確認するとともに、更なる改善に向けた課題形成を図る機会として本年度も学校評価アンケートを実施しました。集計結果に分析を加えて、学校改革・教育改善の進捗をお伝えすべく本書面をまとめました。ご高覧のうえ、ご意見等を頂戴できれば幸甚です。

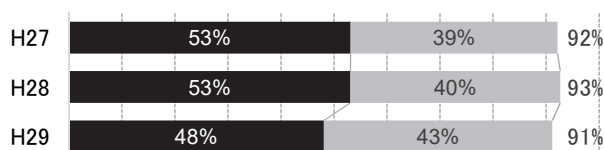
学校長 岩本信久

凡例と集計方法について

凡例: ■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う

集計結果は、特に断りがない場合、「わからない」を除いた有効回答を分母とした百分率で表示しています。グラフ中の数値は小数点以下を四捨五入しているため、表示が一致しないことがあります。今後も情報発信の充実を図り、教育意図の説明をはっきり行うことで、皆様からご明確なご判断を仰げるように努めて参ります。

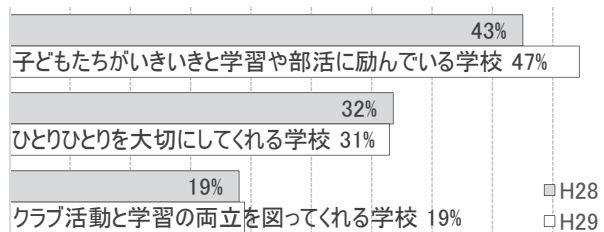
9割超が、本校に入学させて良かった



「大阪高校に入学させて良かったか」という質問で総合的な満足度をお尋ねしました。肯定的な回答が占める割合は9割を維持していますが、昨年度をわずかに下回りました。満足度に与える寄与度の高い項目を中心に更なる改善を図り、より多くの保護者に満足を感じていただける学校を目指します。満足度への寄与度には、コースによる違いも明らかになりました。文理特進では「進路指導」、総合進学では「学校行事」での評価が総合満足度と最も強く連動しています。今後の学校経営では、ここで得られた知見を踏まえて教育リソースの最適配分を図ります。

あったかい学校であり続けます

Q 本校の特徴として次のどれが当てはまるとお考えですか。

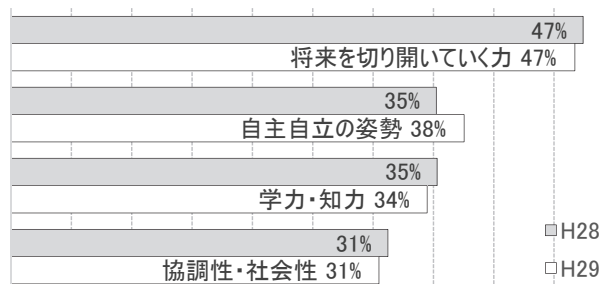


本校の特徴は何かという問いに、保護者の47%が「いきいきと学習や部活に励んでいる学校」を、31%が「ひとりひとりを大切にしてくれる学校」を選びました。3番目は「部活と勉学の両立を図ってくれる学校」です。大高は今後も、生徒と先生が一体となった「あったかい学校」であり続けます。なお、上位3項目の次には「進路指導がしっかりとされる学校」「学習面できめ細かく指導してくれる学校」が並びました。これらの期待にもしっかりと応えていきます。

将来を切り開く力を養うのが学校の使命

子どもに獲得させたい資質として最も多くの保護者が選んだのは「将来を切り開いていく力」(47%)です。この成果を端的に表す指標である「お子様は、学校生活の様々な場面で目標をもってひたむきに頑張っていますか」という問いへの肯定的な回答は、昨年度とほぼ同じ76%に止まり、未だ改善の余地が大きく残ります。上位に並ぶ「自主自立の姿勢」(38%)、「学力・知力」(34%)、「協調性・社会性」(31%)についても期待に応えるべく最善を尽くします。

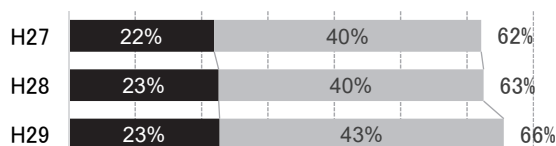
Q 今後、子どもに獲得させたい資質はどれですか。



「学校にさらなる充実を求めたいものは何ですか」という別の質問では、「学習指導や学力向上」を選んだ保護者が最も多く、全体の69%を占めます。一方で、「お子様は、目標や課題をもって学習に取り組めるようになりましたか」という質問での肯定率は

63%→66%と統計的に有意な上昇を示しています。改善の余地が残る結果ながらも、学校を挙げて取り組んできた授業改善は着実に成果をあげつつあると思われませんが、保護者の期待はその先に行っていると考えざるを得ません。期待の増大に追いつくべく教職員が一丸となって授業改善を加速させます。

Q お子様は、自分なりの目標や課題をもって日々の学習に取り組めるようになりましたか。



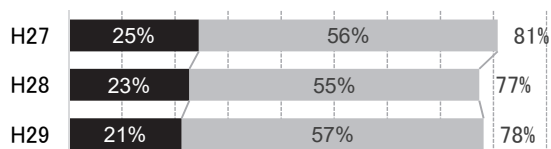
安全確保と規律ある生活の実現

「生徒の安全に対する学校の取り組み」と「高校生にふさわしい規律ある生活」の2項目については、引き続き比較的高い評価を頂戴していますが、いずれも1割強の保護者からは十分にあらざるお声を頂戴している状態です。高校生活の基礎・土台としてさらなる改善に取り組む必要があると考えます。今後の取り組みの中でご家庭のご協力を求める場面もあると思いますが、宜しくお願いいたします。



学校広報のさらなる充実を図ります

様々な教育活動に取り組むとき、その意図と方法、及び成果を正しく伝えることが重要と考えますが、今回、「連絡文書や懇談会などを通じて学校の様子は十分に知ることができるか」という質問に肯定的な回答は大きく増えず、78%に止まりました。



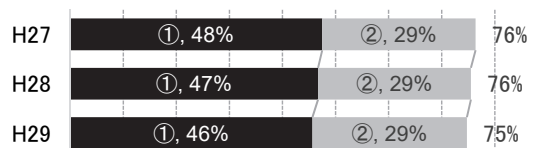
クロス集計でデータを詳しく調べてみると、情報発信を十分と評価する保護者が他項目でも明らかに高い評価をする傾向にあります。一例を挙げると、「学習指導は充実しており、学力向上に十分な成果を

挙げていると思うか」と「進路指導が充実しており、生徒の希望進路の発見・実現に十分に役立っていると思うか」に対し、学校の情報発信を肯定的に評価する保護者からそれぞれ85%、91%の肯定的な回答を頂戴しましたが、情報が十分に届かなかった場合、その割合が60%、68%へと激減します。これまで、どのコース、学年、クラスにも十分な情報をお届けしようと努めて参りましたが、学校広報には更なる工夫が必要と痛感します。学校の姿勢や考え方をしっかり伝えられる広報体制の整備を進めます。

また、下図に示す通り、家庭での対話に関する評価が徐々に後退していることも、学校の様子を伝えきれなかった要因のひとつであると考えます。今後は、時期に即した対話の材料を不足なく提供することで、ご家庭での対話機会を作る策を講じます。

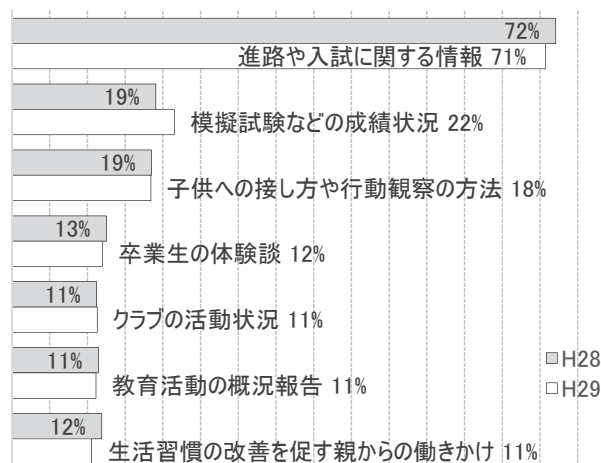
Q 進路希望や将来の職業あるいは学校での様子などについて家庭で話をすることはあるか。

- ①話をする機会がよくあり、保護者も関心をもって会話に臨んでいる
- ②話をする機会はあるが、あまり突っ込んだ話にはならない



保護者会などで取り上げて欲しいとするテーマは下図の通りです。圧倒的多数の方が、進路や入試に関する情報を選んでいきます。学年による違いも踏まえて、適切な話題・情報を適切なタイミングで保護者の皆様と共有できるよう運営に努めます。事前アンケートで関心の所在を探ることも検討いたします。

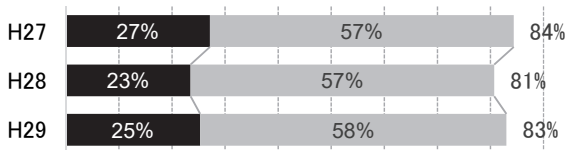
Q 保護者会やクラス懇談会で取り上げてほしいこと、充実を望むことはどれですか。



学校行事、部活動の指導

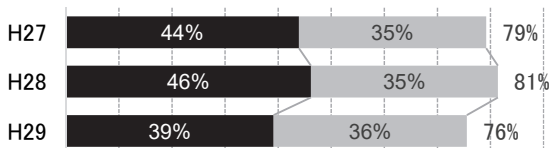
学校行事については、前回の3ポイント低下を受けて巻き返しを図ってまいりました。本校では、「生徒が主役！」の学校行事を、主体性や協働性が育む場と位置づけています。肯定的な回答のうち、「どちらかと言えば」という但し書きがつくものが大半を占めていることから、更なる改善が必要と考えます。

Q 学校行事が充実しており、行事についての様々な工夫や学校の姿勢が強く感じられますか。



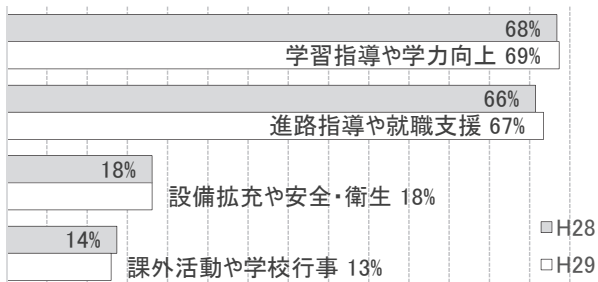
一方、部活動におけるクラブ顧問の指導は、昨年度を5ポイントも下回り、直近3回で最も低い評価となりました。昨年度の指導と違いが生じていなかったか探ることで、改めるべき点の特定を急ぎます。

Q 生徒の部活動に対して、クラブ顧問は熱心に指導していると思われませんか。



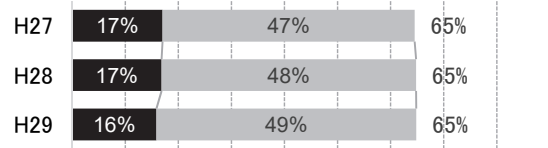
さらなる充実が求められるもの

Q 今後、学校にさらなる充実を求めたいものは何ですか。



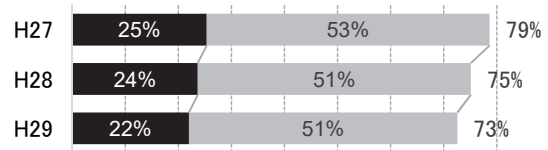
前掲の通り、「学校にさらなる充実を求めたいもの」として、学習指導や学力向上を選んだ保護者が最多でした。ひとつの価値に偏ることなくバランスよく教育活動の充実を図っていきたいと考えておりますが、まずは圧倒的に多く声が集まった学習指導や学力向上、進路指導や就職支援の2項目の充実に優先的に取り組んでいく必要があると考えます。

Q 学習指導は充実しており、学力向上に十分な成果を挙げていると思われませんか。



学校全体での肯定回答率は、昨年度と同じ65%に止まりました。「わからない」を選ぶ回答が例年通り15%ほどを占めており、学校を挙げて取り組んでいる授業改善の成果を十分にお伝えできていないことにも反省すべき点がありそうです。本校の建学の精神は、「全人教育」即ち、知育、徳育、体育のバランスのとれた教育ですが、その核となるのは何と言っても知育です。協働的な学習、生徒が主体的に参加する学びへの転換にむけて、研修・研究を重ねております。その成果をご期待いただきたく存じます。

Q 進路指導が充実しており、生徒の希望進路の発見・実現に十分に役立っていると思われませんか。



特に進路指導は、集計結果に低下が続いており、改善は喫緊の課題と考えております。2020年以降の大学入試では、一般入試でも志望理由書や学習計画書、探究活動の記録などが合否判定の材料に加えられることも踏まえ、進路希望を実現するための指導に加え、進路希望を作る段階での指導も抜本的な見直しを図ります。各フェイズの指導法、指導計画について担当分掌を中心とした研究を重ねると同時に、生徒、保護者に対して指導の実際や意図するところをきちんとお伝えしたいと思います。取り組みの進展について、保護者会や学校HPでの情報にご注目下さい。

将来を考えた行動選択、共存の資質

学校評価アンケートでは、保護者の目を通した生徒の成長ぶりをお尋ねしています。「将来と結び付けた行動の選択」では学年が上がるにつれて肯定的な回答が占める割合が増えていきますが、1年から2年にかけての伸びが大きくありません。子どもの内面で生じている成長が行動になって現れるまでのタイ

ムラグもあるかと思いますが、より早い時期から好ましい行動がとれるようになれば、その中で涵養される資質や能力も増大するはずです。指導の見直しにより、行動にも早期に変化を生じさせたいところです。一方、「立場の異なる相手に耳を傾ける姿勢」は早いうちに身につけている生徒が多く、入学後も様々な経験を機に順調に推移している様子です。

Q 保護者の目から見てお子様は、自分の将来と結びつけて今なすべきことを考えられるようになりましたか。

	H27入学	H28入学	H29入学
1年11月	65.1	63.9	63.6
2年11月	66.5	66.0	
3年11月	77.2		

(回答分布を100点満点に換算して表示してあります)

Q 保護者の目から見てお子様は、立場の異なる相手の意見にもちゃんと耳をかたむけるようになりましたか。

	H27入学	H28入学	H29入学
1年11月	76.8	74.4	76.3
2年11月	77.1	77.1	
3年11月	78.1		

(回答分布を100点満点に換算して表示してあります)

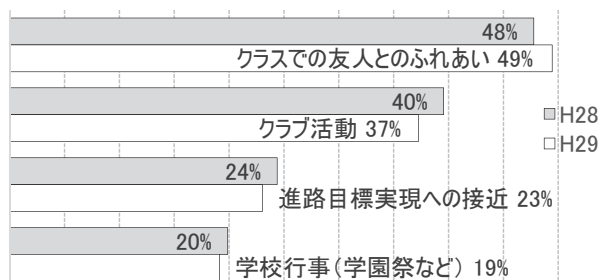
頑張る姿、意欲の原資

Q 保護者の目から見てお子様は、学校生活の様々な場面で目標をもってひたむきに頑張っていると思いますか。



「学校生活の様々な場面で目標をもってひたむきに頑張っているか」という質問への回答は、昨年度をわずかに下回りますが、例年とあまり変わりません。4分の1ほど残る否定的な回答の裏には「もっと頑張してほしい」との期待があると拝察いたします。

Q お子様在意欲や目標をもって学校に進んで通う姿勢を示している対象は何ですか。



保護者の目から見た子供の意欲の対象は、左下図の通り昨年までとあまり変わりませんが、生徒の回答では、「学習や進路実現」の選択率が、平成27年度以前と比べて有意に増え、逆に「交友との交流」は減ってきています。また、「学習や進路実現」を選んだ生徒は、他を選んだ生徒に比べて総合満足度を尋ねた質問で肯定的な回答を選ぶ割合が顕著に高いこともわかりました。授業改善と進路指導の充実を通して学力向上と進路実現に前向きに取り組む生徒を今以上に増やしていくことが、大高を選んでよかったと考える生徒を増やすと考えられます。

育友会の活性化、保護者との相互理解

育友会は保護者と教職員の協力・連携の場として、生徒の健全な成長、教育の向上・発展を目的に平成2年に新設した組織です。その活動内容を知っている保護者の割合は34%→33%→34%→33%と低迷し、「活動内容に関心がある」とした保護者も43%→44%→42%→41%と徐々に減ってきているのが現状です。今後も活動の充実を図るとともに、活動を広く知っていただくことにもこれまで以上に注力します。

	H26	H27	H28	H29
たいへんに関心があり、内容も分かっている	7.2%	7.2%	8.3%	6.9%
関心はあるが、内容についてはよくわからないことが多い	35.8%	37.0%	34.2%	34.0%
あまり関心はないが、活動の内容はある程度知っている	26.4%	26.2%	25.5%	25.7%
あまり関心はないし、活動の内容もよく知らない	30.7%	29.6%	32.0%	33.4%

保護者の要望・意見に対する学校の誠実な対応については、肯定回答率が86%→83%→85%と推移する一方、「わからない」も全体の3分の1を占めています。育友会の活動を高めることで、学校と家庭の相互理解を一層深め、ご家庭や地域からの要望に真摯に応える学校づくりの基盤としたいと考えます。

大阪高校は今後も改革を続け、地域の期待に応える学校、在校生・卒業生が今以上に誇りに思える学校を目指します。今後ともご支援とご協力をお願いします。

本報告書へのご意見・ご質問は下記にて承ります。

TEL:06-6340-3031 FAX:06-6349-3719

保護者による学校評価アンケート担当: 教頭 上山 陽